

キャラクター名
 白羊宮 司 (はくようきゅう つかさ)

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス		ワークス	レネゲイドビーイングB	カヴァー	
	エンジェルハイロウ					
オプション			年齢	12(外見年齢)	性別	男?
覚醒	感染	衝動	飢餓	初期侵食率	38	%
出自	母なる大地	経験	人間への興味	邂逅	主人(自称)	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	23
肉体	1	0	0			1	行動値	13
感覚	5	1	0			6	(非装備時)	13
精神	1	0	0			1	戦闘移動	18
社会	1	0	0			1	全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
フォールンブレード	白兵	6r+1	3	9		命中判定直前使用可,C値-1。使用後武器は破壊される。
+水晶の剣	白兵	6r+1	3	15		
↓59	白兵	5r+9	3	15		侵: 9/装甲無視
↓79	白兵	6r+9	3	15		[オリジン/プラント][C:エンジェルハイロウ][光の舞踏][ペネトレイト][マスヴィジョン]

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 都築京香	
コネ: 情報屋	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
「秘密兵器」	P 連帯感	N 憐憫		
ヘレスポントス(武器)	P 連帯感	N 憐憫		
都築京香	P 傾倒	N 恐怖		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 1 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
水晶の剣	3	4	Xジャー					
効果:	攻撃力Lv×2/シナリオ三回まで							
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果:	衝動判定時の意志D+Lv個/侵蝕率によるLvアップはしない							
オリジン/プラント	4	2	マイナー	至近	自動	自動	RB	
効果:	[感覚]判定時達成値Lv×2							
光芒の疾走	1	1	マイナー	至近	自信	自動	-	
効果:	戦闘移動							
C:エンジェルハイロウ	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-Lv(下限値7)							
光の舞踏	★	2	Xジャー	武器	-	-	-	
効果:	感覚→白兵 置換							
ペネトレイト	★	3	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果:	装甲無視/D-1							
マスヴィジョン	2	4	Xジャー	-	-	対決	100	
効果:	攻撃力Lv×5/シナ3回							
天使の外套	1							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

一人称: 僕
 二人称: ~君/妾なあだ名

正体は多肉植物のハオルチア。現在人型の児童のような容姿をとるが出自が大地の砂漠であったために、多分それなりに生きてきた。都築京香の実験がきっかけで生を受け、自我そして人型として自立して動くことができるようになった。それがきっかけで「マザー」と呼んで慕う。そして「自身」であったアオルチアの房が、人型を取るのと別に、これで身を護れと言わんばかりの刃のような姿を取っていた。「これは僕なんだ」と言って大切にしている。その実態は房に含まれていた水の集合体のようなものから形成された。水のように透き通っている。趣味は日向ぼっこ。

メモ
 トレミー星団
 シェラタン : おひつじ座で2番目に明るい恒星。3等星。アラビア語で「2つ」を意味するが星に対する真意は不明
 牡羊座-白羊宮
 キリスト教においての羊の扱い
 ヘレスポントス: おひつじ座の神話より。ゼウスの生贄に捧げられるはずだった、兄のフリクソスと妹のヘシ。
 二人を羊が乗せ、逃げ飛んで行ったが、あまりのその速さに途中ヘシが海に落ち溺死。ヘシの名にちなみその場がヘレスポントスと呼ばれるようになった(一説)
 ヘレスポントス: 14世紀までビザンティン帝国の重要な水路であった。